

安寧



英靈感謝祭 (8月15日)

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

兵庫縣姫路護國神社報
 「安寧」第十二号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒670-0023 姫路市本町一八
 電話 〇七九-三四一〇八九六
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なと

英靈の言乃葉

家族への訣別

従軍看護婦 錦織 美代子 命

呂武第一六四一部隊
 昭和二十年六月十六日
 中支・武昌陸軍病院にて戦病死
 島根県出雲郷村出身 十九歳

お父様、お母様たちはもう老いさき短いですから、あまり無理をされなくて楽しい余生をおくってください。春子さんには随分心配かけました。

一番私の心残りになるのは姉さんのことです。でもこれからはきつと良いことも続くでせうから、立派に元氣を出して暮らして下さい。

浩ちゃんも、どうか立派な人になって下さい。一生懸命勉強するんですよ、健ちゃんも。邦夫は今頃どうしてゐるやら、生きて帰つても逢へないかも知れない。

いつかはきつと靖國神社で兄様といつしよに逢ふかも知れません。

どうか元氣で戦つて下さい。

お父様、お母様、姉さま、邦夫、健ちゃん、浩ちゃん、みんなさやうなら。

(遺書)



『英霊感謝祭』



英霊感謝祭の様子



追悼ラッパを奉納される林氏

六十九回目の終戦日が訪れた八月十五日。曇り空でむしあつい暑い日であったが、昨年同様、約二百人が午前十時の英霊感謝祭に参列した。今年も、自衛官有志二名による追悼ラッパの奉納が行われた。

泉宮司が祝詞を読み上げ、崇敬奉賛会三木英一運営委員長が玉串を奉り、参列者一同で拝礼し感謝の誠を捧げ、続いて巫女による神楽が奉納された。その後、泉宮司は参列者に対して「戦後六十九年を経て、先祖がどのように考え戦ったのかが漸く明らかになりつつある。その思いを後世に伝えていかねばならない」と挨拶された。正午には奉賛会の会員でもある旧陸軍の林好夫氏が、追悼ラッパを奉納され、境内にいた参拝者は正午の太鼓の音で黙祷を捧げた。この日、靖國神社では十七万人が参拝した。

『英霊顕彰の集い』

英霊感謝祭の後、先人達が大東亜戦争をどのような考えや思いで戦っていたのかを、共に考える「英霊顕彰の集い」が、今年も参集殿二階で開催された。今年も先人達との「繋がり」をテーマに夕方まで様々な演目が披露された。

ラッパの模擬演奏

最初の演目は、英霊感謝祭で追悼ラッパを奉納された自衛官二名による模擬演奏が行われた。普段なかなか直に聞けないラッパの音色を、起

床ラッパから就寝ラッパまで駐屯地の一日を解説を交えながら演奏していただいた。

【参加者の声】

- 二人とも練度が高くそれを維持され素晴らしかった (四十代男性)
- 自衛隊員によるラッパが凄かった (十代男性)
- 自衛隊の事が身近に感じられました (五十代男性)
- ラッパのリズムと演奏時刻から自衛隊内の生活について知る事が出来た (二十代男性)
- 何か元気が出る様でした。隊員の方ありがとうございました (七十代男性)
- 素晴らしかった。自衛隊に感謝です (三十代男性)
- 初めて生でラッパを聞いて感激しました。大変よかったです (七十代女性)

朗読「死んでもラッパを離さない」木口小平

日清戦争時のラッパ手だった木口小平の物語を、奉賛会の三村恵会員が朗読した。木口小平の職務を全うする精神が現在に受け継がれている様子も含めて紹介された。

【参加者の声】

- 聞きやすく感情も伝わってよかつ

た。又、日本人の自分の責務を遂行する精神が、脈々と受け継がれている事を確認し感動した

【参加者の声】

- 現在の小学校の道徳授業でこの先人達の姿を伝えるべきだ(五十代男性)
- 初めて聞きました。木口小平の精神は三・一一で津波の避難放送をされた遠藤未希さんとも重なり受け継がれているのだと思いました (五十代男性)
- 日本人の精神は失われていない (三十代男性)
- 最初の自衛官のラッパ演奏との繋がりがとてもよかったです (四十代男性)
- 仕事を一生懸命することの素晴らしさが良かった (六十代女性)
- 鳥肌がたちました (三十代女性)
- 知らない話でした。とてもよかったです (五十代女性)

アニメ決断「キスカ島撤退」

七月に「戦士の証言」で、講演していた安川氏が実際に戦った戦場であるキスカ島。そこから奇跡の撤退と言われた作戦の内容を紹介したアニメを昼休みに上映。

【参加者の声】

- 娘と参加しました。数日前に「男達の大和」を見ていたため子供で

も心を寄せるのは容易なようでした。子供に伝えるためにアニメは大変よい手段だと思えます。国の為に命を捧げられた御霊に敬意を表します (三十代女性)



「英霊の言乃葉」を朗読

英霊の言乃葉

御英霊が父、母、兄弟に残された遺書や手紙を、奉賛会の会員が朗読。

【参加者の声】

● 涙が止まりませんでした (五十代女性)

● 国と家族を思う言葉に胸を打たれました (七十代男性)

● 英霊の死を無駄にしてはいけない。今できることを考えていきたい (三十代男性)

(三十代男性)

● 何回読んでも聞いても切ないです。戦記とともに語り継いでいかねばと思います (四十代男性)

映画「凧とつて愛」

靖國神社創立百三十年を祈念して平成十七年に作られたドキュメンタリー映画であったが、上映して僅か二日半で上映中止になった。幻の映画。

【参加者の声】

● 明治以降の日本の歴史がよく解りました (五十代男性)

● 話がまとめて聞けて基本的な事が分かりやすかった。また見たいです (三十代男性)

● この映画を義務教育の一つとする事を願う。改めて首相の靖國神社参拝に対する外国の反発に感わされず、毅然と参拝してほしいと思いました (三十代男性)

● 情報操作によって真実がねじ曲げられているのは許せない。真実を広めたい (三十代男性)

● 二回目の視聴でしたが、今回の方が良く理解出来ました。学校で放映すべきだ (六十代男性)

(六十代男性)

ひとり語り「終戦後に散った防人」昭和二十年八月十七日に上陸してきたソ連軍に、勇猛果敢に戦う先人達の様子を、当時の時代背景の説明を加えながら朗読。

【参加者の声】

● 初めて知りました。北海道を守るため、日本国土を守るため戦われた方々に感謝致します (五十代女性)

● 日本人としてどうあるべきか考えさせられました (三十代女性)

● 想像を絶する内容で呆然自失になりました (三十代男性)

● 勇敢に戦われた御英霊の為に、後世まで国がなくならようにしたい (三十代男性)

「みんなで日本を唱う」

現在音楽の教科書から姿を消している、当時歌われた素晴らしい歌を参加者一同で歌った。演奏曲は、「愛国行進曲」「蛍の光」「元寇」「海ゆかば」。蛍の光は現在も一番二番のみ歌われているが、戦後歌われなくなった三番四番が紹介された。

【参加者の声】

● 初めて聞いた歌も鳥肌が立ちました、やはり日本人なのだとしみじみ感じました (三十代女性)

● 素晴らしい日本語の歌詞もメロディも美しく家族、子孫で歌い継ぎたい (三十代女性)

(三十代女性)

【全体の感想】

● 英霊に感謝の心を抱いた
● 初めて参加しました良かったです来年もまた参加したい
● 毎年継続してほしい
● もっと多くの人に参加してほしい
● 短い時間ですが参加出来て良かったです。いつもありがとうございます
● 全日を通して良い会だった。次回も参加します

● 映画の時間に間に合わなかったので、定期的には上映してほしい
● もっと今の国が平和であるために、こう言ったイベントを広く知ってもらいたい

● 遺族として出征した姫路の地での祭祀、命日にも参拝したいと思った



「元寇」の歌詞を説明

※護國神社のホームページで八月十五日の様子をご覧になれます

講演会 第二回戦士の証言

「酷寒キスカの戦場」

元二等整備兵 安川 毅 氏



暑い日差しの中、姫路城の美しい姿が久振りに、大勢の市民や観光客の目の触れる七月十九日、酷寒のキスカ島で戦闘機整備兵として戦われた安川毅（たけし）様の講演に一二〇名以上の方が聴講された。内三〇代の方は約三割、また、女性も約二割だった。当初、証言の内容を理解して頂くため、戦場になった経緯を説明してから講演を実施した。戦場体験者から聞く機会が現在急速に失われている。そこで講演に不慣れを承知で、証言を頂いている。私達が知りたい戦場の実態や英霊の方々の苦悩等を、崇敬奉賛会 三木英一氏の質問に応えて頂く方式で、証言を導きだし、内容を整理して進める対談方式である。

キスカ島での厳しい戦場体験は少ない証言の内容から類推するしかないが、しかし想像は容易にしていた。アツツ島玉砕の知らせは情報統制で国民はもとより軍人にも暫く知らされなかったが、「知ったときのお気持ちはいかがですか？」との質問には、多くの戦友が亡くなった悲惨な状況を思い出され、涙を流されて言葉が詰まった姿に、聴講されている方々には有言以上の感銘を与えたようである。キスカの冬季の気候は想像以上に厳しく、洞窟陣地の中で堪え忍ぶしかなかったこと、陸軍と海軍の補給内容が異なり、陸軍は物資不足がちで海軍の指揮官が手作業で飛行場建設に苦勞する陸軍将兵の為に、特に食糧等を支援していたとのこと、現場では陸海軍は協力しあい、お互い励ましあっていたこと等、貴重なエピソードも証言された。又、二式水上戦闘機は優秀で沢山の敵機を撃

墜したが、荒天が多く出撃は少なかった。

キスカ島将兵は「撤退」が決まった後は、何時艦隊が来るのか解らず、毎日、遠くは七〜八キロ先から港に集まって沖を眺めていたこと、安川氏は重病に罹り潜水艦で離島されたので、奇跡の撤収については情報統制が徹底され、米軍が上陸して日本軍がいなかった事が判明した後、公表されて初めて知り、嬉しさがこみ上げると共に大変な作戦であった事は後年知ったそうである。

終戦間近では峰山航空隊で多くの予科練生が練習機に模擬爆弾を積んで、特攻の練習をしていたのを支援されていたが、終戦後多くの練習生は「米軍が上陸したら突撃する」と刀を手入れて息巻いていたとのこと。そしてこの少年達が国の再建に尽力された。

さて、最後に安川氏が「私達の年代（大正生まれ）は国難になったら国を守るために命を捧げることが、教えられなくても当たり前のことと認識していた。今でも二五〇キロ爆弾を積んで国や英霊を侮辱



満員となった会場

する国に突っ込んで行きたい衝動を感じる。勿論、気持ちの話ですが、国を愛することは国民として当たり前で、平和を望むなら友好を大切にしなければならぬことを多くの国々は理解しているのに、悪意をもって理解しない国の指導者にいい加減にして欲しいと本意を促す為の心情です。」と話された。また、「現在の若者に伝えておきたい事は？」の質問には「己の自分を果たして欲しい」と締めくくられ、大きな拍手を背に受けて会場を後にされた。（運営委員 曾田孝一郎）

二十六年 度 崇 敬 奉 賛 會 総 会 開 催 さ る

平成二十六年 度 総 会 は 四 月 二 十 五 日 午 後 三 時 よ り 安 泰 祈 願 祭 を 護 國 神 社 本 殿 に て 齋 行 写 真 撮 影 の ち 会 館 に お い て 総 会 を 開 催 し た。 当 日 は 三 宅 知 行 会 長 (姫 路 信 用 金 庫 理 事 長) 以 下 常 任 理 事 ・ 監 事 が 参 加 し た。 国 歌 を 全 員 で 斉 唱 し た の ち 宮 司 よ り 開 会 の 言 葉。 そ し て 会 長 よ り 挨拶 が あ っ た。 規 約 に 則 り 会 長 が 議 長 に 就 任 し 議 事 に 移 り、 平 成 二 十 五 年 度 事 業 報 告、 平 成 二 十 五 年 度 決 算 報 告、 監 査 報 告、 平 成 二 十 六 年 度 事 業 計 画 (案)、 平 成 二 十 六 年 度 予 算 (案) が 審 議 さ れ 何 れ も 満 場 一 致 で 可 決 さ れ た。 五 号 議 案 と し て 役 員 変 更 が 提 出 さ れ 承 認 さ れ た。 議 事 終 了 後 本 年 一 月 十 二 日 の 「 戦 士 の 証 言 」 に 実 施 し た 講 演 会 の 報 告 が な さ れ た。 懇 親 会 に う つ り、 参 加 者 が そ れ ぞ れ 自 分 の 想 い 等 を 発 表 し 和 や か な う ち に も 意 義 深 い 総 会 の 幕 を 閉 じ た。 当 日 承 認 さ れ た 主 な 議 事 及 び 新 役 員 は 別 記 の 通 り。

《平成二十五年 度 決 算 報 告》

| (収入の部) | | |
|---------|-----------|--|
| 子算項目 | 決算額 | 内 容 |
| 繰越金 | 3,550,861 | |
| 会費収入 | 2,246,000 | 法人24口120万 個人186口84万6千 終身会員8口45万 賛助会員5口5万 |
| 雑収入 | 373,310 | 新年祈願祭参加費(⑤5000*60名300,000円)其の他 受 取利息316円、堂拜氏講演会(⑤500*146名73,000円) |
| 収入合計 | 6,170,177 | |
| (支出の部) | | |
| 支出項目 | 決算額 | 内 容 |
| 神社奉納金 | 300,000 | 神社奉納金 |
| 事業費 | 1,669,888 | 社報発行及び発送(安寧8-10号)918,147円 七号作取4000部 176,000円 堂遊覧券124,354円 戦士の証言講演会115,760円、新年祈願祭306,183円、 その他 |
| 事務費 | 100,000 | 崇敬奉賛會連西事務費 神社社計へ繰り入れ |
| 会議費 | 313,803 | 総会・運営委員会10回 |
| 雑費 | 33,600 | 振替手数料、残高証明書、I B基本料 |
| 予備費 | 51,000 | 名誉宮司遊玉串料・生花供束 |
| 次年度へ繰越金 | 3,701,885 | |
| 支出合計 | 6,170,177 | |

《平成二十六年 度 予 算》

| (収入の部) | | |
|---------|-----------|--|
| 子算項目 | 本年度予算額 | 内 容 |
| 繰越金 | 3,701,885 | |
| 会費収入 | 2,800,000 | 法人 30口×50,000円 個人 200口×3,000円 終身会員 10口×50,000円 賛助会員 20口×10,000円 |
| 雑収入 | 308,115 | 新年祈願祭会参加費(5千円×60 名) その他 |
| 収入合計 | 6,810,000 | |
| (支出の部) | | |
| 子算項目 | 本年度予算額 | 内 容 |
| 神社奉納金 | 1,000,000 | 神社奉納 |
| 事業費 | 1,700,000 | 英霊感謝の集い、社報2回発行及び 発送(60万)、新年祈願祭直会(30 万)、他の事業 |
| 事務費 | 100,000 | 奉賛會事務(神社へ) |
| 会議費 | 460,000 | 総会 運営委員会 |
| 雑費 | 50,000 | 郵便振替手数料・銀行口座基本手 料等 |
| 予備費 | 300,000 | |
| 次年度へ繰越金 | 3,200,000 | |
| 支出合計 | 6,810,000 | |

《新 役 員》

- (姫路信用金庫 理事長) 三宅知行
- (釜谷紙業㈱ 監査役 県会議員) 釜谷研造
- (宮 司) 副会長 泉 和慶
- (総代会 朝来市遺族会長) 副会長 大川久夫
- (総代副会長 兵庫県遺族会会長) 常任理事 岸野弘
- (総代副会長 多可町遺族会会長) 常任理事 迎山正明
- (運営委員長・総代) 常任理事 三木英一
- (西播通運㈱ 取締役会長) 常任理事 小西高男
- (寺田産業㈱ 代表取締役会長) 常任理事 寺田祐三
- (姫路市連合自治会長) 常任理事 岩成孝
- (姫路郷友会長) 常任理事 福本正明
- (隊友会 顧問) 常任理事 中木村章
- (隊友会 姫路支部長) 常任理事 三枝副三

- (榎本田商店 代表取締役社長) 常任理事 本田眞一郎
- (阿比野建設㈱ 代表取締役社長) 常任理事 阿比野剛
- (天和産業㈱ 代表取締役社長) 常任理事 岡田兼明
- (三相電機㈱ 代表取締役社長) 常任理事 黒田直樹
- (榎新宮運送 代表取締役) 常任理事 木南一志
- (前川推進建設㈱ 代表取締役) 常任理事 前川英昭
- (榎ハトヤ 代表取締役) 常任理事 松本敏郎
- (天田産業㈱) 常任理事 天田博子
- (隊友会姫路支部 事務局長) 常任理事 曾田孝一郎
- (姫路信用金庫 総務部長) 監事 本庄明裕
- (総代会監事 高砂市遺族会会長) 監事 岡本勝弘
- (姫路市連合自治会 副会長) 理事 田中種男
- (赤穂市連合自治会 会長) 理事 睦谷博
- (市川町区長 会長) 理事 橋本喜十郎
- (賀堂流宗家) 理事 磯部賀堂
- (姫路地区神社総代会会長) 理事 富田宏
- (姫路市連合婦人会長) 理事 岩田稔恵
- (姫路市生涯クラブ連合会長) 理事 奥西良行
- (総代会監事 養父市遺族会長) 理事 事橋本幹夫
- (総代会監事 太子町遺族会長) 理事 事井川隆夫
- (加西市市議員) 理事 深田真史

平成二十六年 度 春 季 大 祭 齋 行

恒例の春季大祭(五月二日)が晴天の下七百名あまりの参列があり齋行された。遺族や崇敬者の奉賛のもと淡交会や市民合唱団などたくさんの方々の方々の奉仕により、本年も盛大に執り行われた。



シリーズ 英霊の戦場 (三)

サイパン・テニアン防衛戦

一 サイパン島防衛戦

(一) 日本領となつた両島の経緯

サイパン・テニアン島はマリアナ諸島の一部で一六世紀スペイン領となつていたが、明治三十二年（一八九九年）ドイツに売却、第一次大戦後の大正十年、ドイツ領だつた南洋群島を国際連盟から日本に委任統治領が認められた後、政府は両島に約五万人を移住させ経済発展に尽力した。昭和十九年の日米激突で敗戦占領され、昭和二十年以降アメリカの信託統治領となつた。（日本はサン・フランシスコ講和条約で委任統治を放棄させられた。）

サイパン戦については近年日米双方で映画が作製上映され、又両陛下が慰霊鎮魂に訪島された事等で、関心を持つ戦後世代が増えたことは確かである。しかし昭和四十年代から海外旅行ブームが起こり、冬季の観光地として人気を集めた島であつたが、何故か慰霊碑に参拝する若者の姿が無く、島民から非難を受けた時期があつた。この島で日米両軍が激戦した事を知らない若者の存在に、国の為に一命を捧げた英霊や大勢の民間人で自決した方々がどの様に悲しまれたか、改めて次世代に伝えて行くことの重要性を認識させた島でもある。

(二) サイパンの戦略的位置

米軍の戦略爆撃機B29は爆弾四噸（最大九噸）積載しても五千五百キロ以上の航続性能があり、サイパン島が奪取されると西日本本土が空爆圏内に入るため、日本にとっては絶対死守すべき島であり、また米軍にとっては日本を降伏させる為には絶対奪取すべき島となつた。

(三) 防衛戦の概要

昭和十九年二月日本はマリアナ諸島が国防に重要な影響を及ぼすと判断し、占領を企図する米軍の来寇は七月以降と予期し、水際防御で米軍の上陸企図を破碎しようと陣地構築を開始したが、構築半ばで且つ主力部隊は一ヶ月前に到着したばかりの準備不十分の態勢下、六月十一日から上陸前の熾烈な砲爆撃を浴び、陣地と共に精銳の主力部隊も大打撃を蒙つた中、十五日対上陸戦闘が開始された。然し、日本軍の残存部隊と砲兵による反撃は凄まじく、上陸軍（二個師団）の二割を死傷させたものの陸統と上陸する後続部隊と命中精度の良い艦砲による固定陣地の破戒で、主戦力を失つた陸海軍は島内山地に後退し、粘り強い反撃をもつて多大の出血を強要した。（米軍は師団長が更迭させられる事態に発展）

米軍兵士の証言：小柄の日本軍兵士が銃剣付小銃で突撃してきた。驚いた兵士が撃ち倒したが再び起き上がったって刺突しようとしたので数発撃ち込んでやっと倒した。その勇敢さに我々は言葉を失った。

夜襲対策を備えた米軍陣地に日本軍は夜襲を繰り返し、戦力を急速に失い、最後は島の北端のマツピ岬に追い詰められ、七月七日敵戦力の滅殺を狙い且つ皇国

の弥栄を祈念して突撃し玉碎した。（後世、万歳突撃と呼称された）又多くの民間人が自決した。

近年、投降を拒否した一部の将兵（大場栄大尉以下四九名）が終戦後も米軍を悩ませた実話が映画化された。マリアナ失陥で東条内閣が総辞職となる！

このことは「開戦は国会の決議で行われ、戦時中も機能していた」証左である。

付記：サイパン島防衛に協力した海軍はマリアナ沖海戦で多数の航空機と艦船を失い敗北し、以後戦力を回復できないまま、やむなく特攻で対応する戦法の採用に移行した。

(四) 日米兵力と損耗状況（陸海軍合計）

日本軍： 四三六八二人

戦死者 四一二四四人

米上陸軍： 七二〇三四人

戦死者 三四四一人・戦傷者 一一四六五人

(五) 姫路護国神社に祀られている英霊柱

陸軍四三柱、海軍二七柱、軍属二二柱

守備隊には兵庫県東部出身将兵が多く神戸護国神社には姫路より多くの英霊の方々が祀られている。

米軍は三ヶ月余の工事でB29約三〇〇機駐機出来る飛行場を建設し、十一月より本土空襲を開始。

二 テニアン島防衛戦

(一) 戦闘の概要

テニアン島はサイパン島の南に位置し概ね平坦な地形で飛行場建設に適し、第一航空艦隊の基地航空隊が

在島していた。米軍はサイパン占領の後はグアム島(米
 国領)奪還戦に移り、その後にはテニアン島へ来攻した。
 守備隊は飛行場勤務者四二〇人(陸上戦闘未体験)
 と陸軍の一箇連隊四〇〇一人、現地で一六〇四五才の
 男子を募つて義勇隊約三五〇〇人を組織し、敵の上陸
 に備えていた。烈しい砲爆撃はサイパン上陸前の六月
 十一日から同島に対しても指向され、上陸されるまで
 に守備隊は大きな損害を受けていた。

米軍の上陸作戦は七月二十四日、島の南部に上陸す
 るとの陽動作戦に守備隊は引つ掛かり、手薄となつた
 北部に海兵二箇師団が上陸、夜襲を試みたが大損害を
 受けて撤退、以後圧倒的な火力と兵力に、陸上戦闘に
 慣れない守備隊は南部のカロリナス山・岬に追ひ詰
 められ八月二日玉砕突撃を行つて散華した。同島でも
 サイパンと同様多くの民間人が自決された。尚、投降
 拒否した将兵六一名が終戦後保護された。

(二) 日米兵力と損耗状況

(義勇隊除く陸海軍)

日本軍： 八一一人

戦死者 七七九八人

義勇隊含む民間人戦没者 約三五〇〇人

米上陸軍： 五四〇〇〇人

戦死者 三八九人・戦傷者 一八一六人

(三) 姫路護國神社に祀られている英霊柱

(英霊の戦没地がマリアナ諸島としか記録されてい
 ない方で戦死年月日からテニアンと推定できる柱のみ
 を撰んだ)

陸軍一一柱、海軍一一五柱、軍属一柱
 昭和二〇年八月テニアンから原爆搭載のB29が発
 進し広島・長崎に投下した。

三 民間人の悲劇

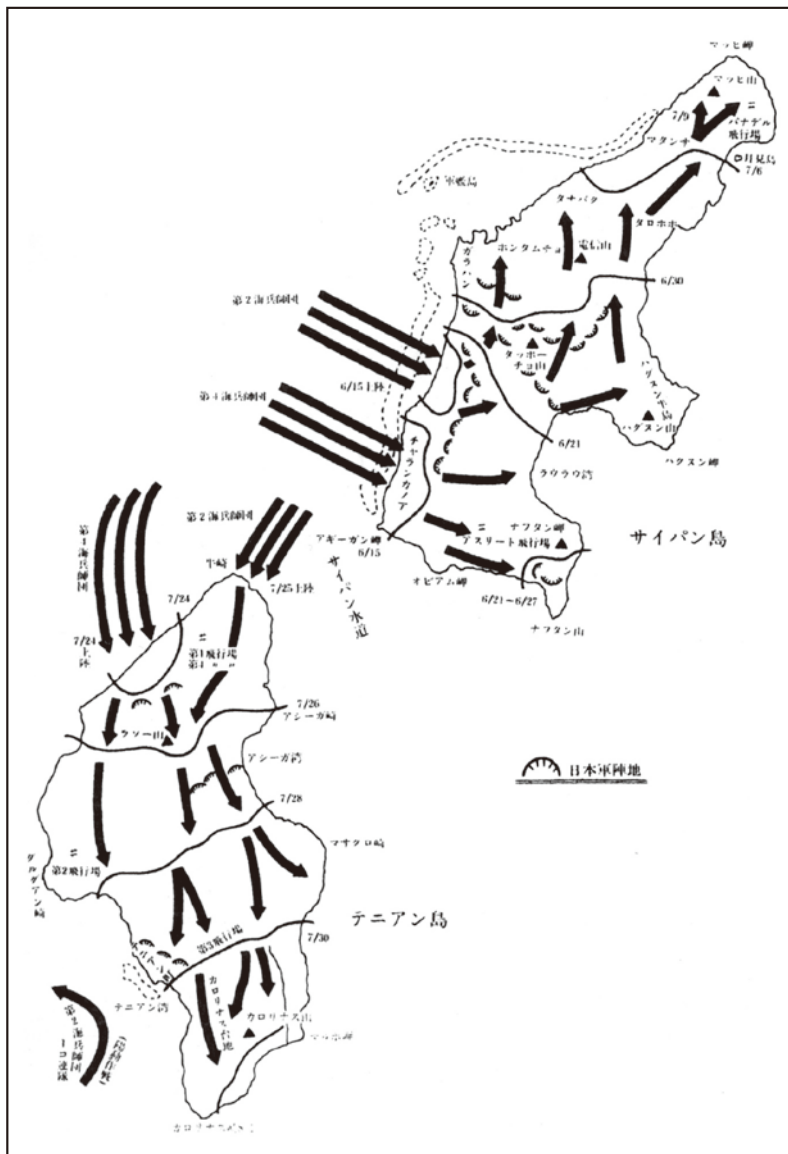
両島では多数の民間人が自決や投身自殺の悲惨な状
 況が生じた。理由は不敗の軍と行動を共にした事で
 戦陣訓の「生きて虜囚の辱めを受けず」が民間人に染
 まり、敵に捕まれば惨い仕打ちを受けるとの風評が信
 じられた事。この教訓から最近「国民保護法」が成立した。

四 海行かば 水漬くかばね

遺骨が永久に帰還できない多くの英霊の存在を知つ
 て下さい。特攻・海上での空戦・海戦に因る艦船沈没
 等の御霊は護國神社にしっかりと祀られています。

シリーズに参考としている戦史書

防衛省発行の「防衛庁戦史叢書」を基礎資料とし、
 参考に「太平洋戦争研究会編」と日米戦士の証言では
 「光人社NF文庫」から一部採用しています。



(サイパン・テニアン攻防戦)

旧漢字・旧仮名遣いを学ぶ

(その一)

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事 三木 英 一

先の大戦に敗れた後、それまでの日本が何もかも悪かったかのように、すべてを変えて新しい再出発をするという雰囲気の中で、漢字の制限や仮名遣いを変えるという日本文化の根幹にかかわるような国語改革が行われた。

昭和二十一年十一月十六日に、「当用漢字表、および現代仮名遣いの実施に関する」内閣訓令および告示公布が出された。そして同二十三年二月に「当用漢字別表」「いわゆる教育漢字」と「当用漢字音訓表」、同二十四年四月に「当用漢字字体表」が公布された。

昭和二十二年の教育制度改革後の義務教育を受けた世代の日本人は、残念ながら、いわゆる旧漢字、旧仮名遣いの戦前の文章が読めなくなってしまう現状がある。そこで、今回からシリーズで戦前の文章を読む稽古をすることにした。まず易しいものからと思い、第一回目は戦前の小学校初等科修身書四年生用から、「野口英世」の文章を味わうこととする。
(旧漢字、旧仮名遣いの部分には傍線を入れている。)

野口英世

英世は、三歳の時、^①ゐろりの中にころがり落ちて、ひどいやけどをしました。母の^②かいはうで、命だけは取りとめました。左の手は、五本の指がくつついて、まつたくきかなくなつてしまひました。

それでも、英世は^③元氣に育ちました。その上、^④りかうでしたから、五六歳のころには、何をやつても、近所の子どもに負けたことはありませんでした。子どもたちは、くやしませに、^⑤英世の手が^⑥かたはであること^⑦をからかひました。

^⑧學校へ行くやうになると、いつそうみんなから、笑はれたり、^⑨からかはれたりしました。英世は、^⑩じつとそれを^⑪こらへて、

「よし、手は^⑫かたはでも、一心に勉強して、^⑬お國のために、きつとりつばな仕事をしてみせるぞ。」と、^⑭かたい決心をしました。

英世の家は、^⑮磐梯山のふもとの町へつづいた道のそばにありました。

かやぶきの小さな農家で、^⑯わらごぎをしいた部屋が二つ、あとは土間となり合はせの馬小屋があるだけでありました。

母は、^⑰骨身をします、よく英世のめんたうを見ました。この母にたいしても、英世は、^⑱ほかの子どものやうに、遊んでゐる氣にはなれませんでした。

その地方は、雪の多いところでしたが、^⑲元氣な英世は、どんな大雪の日でも、^⑳休まず學校へ^㉑通ひました。

^㉒りかうで、^㉓元氣で、何事にもねつしんな英世に感心した人たちは、^㉔その手が^㉕かたはであることを、^㉖かはいさうに^㉗思ひました。かうした人たちのしんせつで、^㉘英世は、ある^㉙醫者の手術を受けました、すると、^㉚これまで不自由だつた手が、^㉛どうやら使へるやうになりました。それに^㉜つけても、

英世は、^㉝醫者といふものがありがたい人助けの仕事であることを知り、^㉞自分も^㉟醫者になつて、世のため人のためにつくしたいと思ひました。

そこで英世は、^㊱學校を^㊲そつげふすると、^㊳さきに手術を^㊴してもらつた^㊵醫

者の弟子になりました。さうして、^㊶先生の^㊷手傳ひをして、一生けんめいに^㊸働くかたはら、いろいろな^㊹醫學の本を^㊺読み、また^㊻外國語の^㊼けいこをししました。

やがて英世は、東京に生まれました。二十一歳の時、^㊽醫者の^㊾しけんを^㊿りつぱに[㋀]受けて、いつでも[㋁]醫者になることが[㋂]できるやうになりました。

しかし、それだけでまんぞくするやうな英世ではありませんでした。まもなく、[㋃]アメリカ[㋄]合衆國に[㋅]渡つて、勉強を[㋆]つづけ、[㋇]研究を[㋈]重ねました。次々に[㋉]醫學上の[㋊]新しい[㋋]發見をし、[㋌]むづかしい[㋍]病氣を[㋎]なほす[㋏]方法を[㋐]考へて、[㋑]たくさんの人々を[㋒]すくひました。

昭和三年、英世は[㋓]アフリカへ[㋔]渡つて、[㋕]恐しい[㋖]ねつ病の研究をしました。[㋗]をしいことに、自分もその[㋘]病氣にかかつて、[㋙]とうとうその[㋚]地で[㋛]なくなりました。五十三歳でありました。

このことが、[㋜]かしこぎ[㋝]あたりに聞こえますと、[㋞]特に[㋟]旭日[㋠]重光[㋡]章といふ[㋢]勳章をお授けになりました。世界の[㋣]學者たちは、[㋤]人類の[㋥]恩人をうしなつたといつて、[㋦]たいそうを[㋧]しみました。

〔現在の漢字・仮名の表記〕

①いろいろ (囲炉裏) ②かいほう (介抱) ③しまい ④20元気 ⑤23りこう (利口) ⑥13かたわ (片端、体の一部の機能に障害があること。現在は使われない) ⑦からかい ⑧25学校 ⑨よう ⑩笑われ ⑪からかわれ ⑫こらえ (堪える) ⑬お国 ⑭合わせ ⑮おしま (惜しまず) ⑯めんどう (面倒) ⑰ように ⑱いる気 ⑲通い ⑳かわいそう ㉑34思い ㉒こうした ㉓31333744 ㉔医者 ㉕使えるように ㉖いうもの ㉗そつぎよう (卒業) ㉘そうして ㉙手伝い ㉚かたわら ㉛49医学 ㉜読み ㉝外国語 ㉞できるよう ㉟ような ㊱合衆国 ㊲発見 ㊳むずかしい (難しい) ㊴病気 ㊵なおす (治す) ㊶考えて ㊷すくい (救い) ㊸おしい (惜しい) ㊹病気がかしこきあたり (意味:「おそれ多い所」の意で、宮中・皇室を婉曲に指して言う語) ㊺いう ㊻学者 ㊼おしみ (惜しみ)

「歴史認識」

兵庫縣姫路護國神社崇敬會

會員 荒尾雅一

「歴史というものは虹のようなものである。それは近くに寄って詳しく見れば見えるようなものではない。近くに寄れば、その正体は水玉である。」これはイギリスの言語学者、オーウェン・バーフィールドの言葉である。当然のことながら、虹は見る人から一定の距離や角度を置いたときにはじめて明瞭に見える。逆に言えば、その角度や距離が適当でなければ虹は見えない。しかしその見え方は、当然、その人の立つ位置や距離によって違っている。バーフィールドは歴史をこの虹のようだと言ったのである。水玉とはひとつひとつの事件である。それらを見る人の立場や状況が違えば、当然その解釈も違ってくる。たとえば、ナポレオンはフランス人から見れば「英雄」であるが、ドイツ人から見ればただの「侵略者」に過ぎない。この認識の相違は永遠に埋まることはない。これがバーフィールドの指摘している歴史の本質である。そして、この定義に従えば、歴史認識をすり合せよ

うとする試みが、いかに歴史の本質から外れた話であるか理解できる。自分たちの国から見える歴史を主張するのは、その国の人間にとつては当然のことである。日本には日本の主張があり、アメリカ、イギリス、中国、韓国にもそれぞれの主張がある。大東亜戦争について言えば、日本の自衛のための戦いだつたということ、マッカーサーがアメリカの議会で証言している。マッカーサーという客体から見て、あの戦争が日本の自衛のための戦いだと認識された事実は、意味のあることに違いない。しかし、それを頼りに日本人が世界に向けて自分たちの主張をしないことは怠慢でないだろうか。つまり、マッカーサーなどの外国人がどう思うのではなく、日本人としてあの戦争をどう考えているか、どう捉えているかということに主張していくことが重要ではないだろうか。今まで、日本人はあまりにも本当の歴史を話すことをはばかってきた

のだと思います。そこを一部の心ない近隣諸国に突かれてきました。しかし、問題の根源は国外ではなく国内にあります。

ヘンリー・ストークスの著作に「英人記者が見た連合軍戦勝史観の虚妄」という本があります。タイトルの通り勝者が作る歴史への批判が語られております。その中の一文に非常に考えさせられるものがあります。引用すると、「南京大虐殺も従軍慰安婦問題も、捏造された情報の発信源は、ほかならぬ日本人だつた。この問題をどうするか、それは日本人が自分で考えなければならぬ。」という一文です。この事実は既知であるにもかかわらず、改めて英国人から指摘されることで胸に突き刺さる思いがいたしました。今、国外で展開されている反日活動の原点は、すべからず日本の内から生み出されていたのです。この現象は、諸外国から見れば恐ろしく奇異に映っているに違いない。我々は海外の慰安婦像を憂う前に、まずこの国内問題と向き合わねばならない。その第一歩が、日本人としての正しい歴史を学び、日本人から見える歴史を主張していくことである。

(特定医療法人 社団 仙齡会
はりま病院 事務部長)

日誌抄 二十六年四月、二十六年九月

- 平成二十六年 四月 六日 廣嶺中同窓会開催
四月 九日 兵庫縣神社廳姫路支部会開催於総社
四月 十日 隊友会総会開催
四月 十四日 崇敬奉賛会運営委員会
四月 十五日 姫路遺族会総会参加
四月 十六日 姫路調停協会総会参加
四月 十八日 日本会議講座宮司担当開催
四月 十九日 兵庫縣神社廳役員会於兵庫縣神社廳出向
四月 二十四日 崇敬奉賛会総会祈願祭
四月 二十五日 春季大祭執行
五月 二日 ビルマ会慰霊祭
五月 十一日 兵庫縣神社廳姫路支部研修(九州宗像大社)
五月 十二日 日本会議講座開催
五月 十七日 神社本庁評議員会出向
五月 二十一日 宮司 日航共栄会百名で講演
五月 二十五日 姫路郷友会総会参加
五月 二十八日 神河町慰霊祭執行
六月 三日 自然環境シンポジウム伊勢神宮於出向
六月 四日 崇敬奉賛会運営委員会開催
六月 六日 防衛懇話会湊川神社へ出向
六月 十六日 兵庫縣神社廳姫路支部役員会総会参加
六月 十七日 商工会議所青年部戦士の証言講演会
六月 十八日 佐用三日月地区慰霊祭二十名
六月 十九日 全国会議講演会開催
六月 二十四日 日本会議講演会へ出向
六月 二十七 宮城縣護國神社・山形縣護國神社・福島縣護國神社
六月 二十八日 神道政治連盟代議員会出向生田神社
六月 二十九日 清掃奉仕の会百名参加
六月 三十日 波賀町慰霊祭
七月 一日 大祓式執行
七月 三日 神社総代役員会月次祭参列
七月 七日 第二十九回崇敬奉賛会運営委員会開催
七月 九日 神社總代会開催
七月 十一日 愛知縣護國神社職員第一陣正式参拝
七月 十二日 愛知縣護國神社職員第二陣正式参拝
七月 十九日 第二回一戦士の証言 開催百二十名参加
七月 二十日 海上自衛隊防衛大学二回生六十名参加
八月 四日 英靈に答える会西播研修会
八月 七日 兵庫縣神社廳姫路支部現任研修(総社)
八月 十五日 英靈感謝祭・英靈顯彰の集い
八月 二十五日 第三十回崇敬奉賛会運営委員会
八月 二十七日 第三十一回崇敬奉賛会運営委員会
八月 三十一日 お宮探検隊(巫女二名参加) 出石神社
九月 一日 兵庫縣神社廳姫路支部役員会総会
九月 三日 スローフードな縁日祈願祭



崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた英霊を大事にしたいと思う人
先祖を敬う心を持っている人
見えないものを受け継いでいきたいと思う人
奉賛会に入会して神社を支えて下さい
我々と共に英霊に感謝しそして汗をかき、涙を流しましょう

奉賛会事務局 〒670-0012 兵庫県姫路市本町118 電話 079-224-0896 http://www.himeji-gokoku.jp/housankai/

崇敬奉賛会申込書

ご希望の方はこの用紙に必要事項をご記入の上、このままファックスしてください。

届きましたら会費入金用紙を送ります。入金が確認できましたら、会員証、バッジをお送りいたします。
また、新年(成人の日)には会員安泰祈願祭を執行して会社繁栄、健康祈願を致します。ぜひ、この際ご入会下さい。

団体法人賛助会員(年会費一万円)が新設されました。ぜひご入会下さい

Form fields for name, address, phone, fax, and email.

Table with columns: 会員種別, 年会費, 希望種別. Rows include 団体法人会員 (5万円), 団体法人賛助会員 (1万円), 個人会員 (1口3,000円), 終身会員 (5万円).

ファックス 079-224-0885